

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	国際ビジネス公務員大学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
商業実務 専門課程	公務員科 行政公務員コース	夜・通信	0 時間	160 時間	※
	公務員科 公安公務員コース	夜・通信	0 時間	160 時間	※
	公務員短期受験科 (1年課程)	夜・通信	0 時間	80 時間	※
	総合医療事務科 医療事務・医療秘書コース	夜・通信	160 時間	160 時間	
	総合医療事務科 くすりアドバイザーコース	夜・通信	160 時間	160 時間	
	総合医療事務科 医療情報コース	夜・通信	160 時間	160 時間	
	医療事務科 (1年課程)	夜・通信	96 時間	80 時間	
	総合ビジネス科 販売コース	夜・通信	184 時間	160 時間	
	総合ビジネス科 経理事務コース	夜・通信	258 時間	160 時間	
	総合ビジネス科 ホテル・観光コース	夜・通信	176 時間	160 時間	
	総合ビジネス科 イベントビジネスコース	夜・通信	202 時間	160 時間	
	情報ビジネス科	夜・通信	168 時間	160 時間	
	ライフデザイン科 2年制	夜・通信	208 時間	160 時間	
	ライフデザイン科 1年制	夜・通信	112 時間	80 時間	
教育社会福祉 専門課程	こども保育科 保育士コース	夜・通信	7 単位	6 単位	

	こども保育科 幼稚園教諭併修コース	夜・ 通信	7単位	6単位	
--	----------------------	----------	-----	-----	--

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-jb.html>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名(公務員科・公務員短期受験科)
(困難である理由) 【公務員科・公務員短期受験科】 公務員の業務・スキルを学ぶ学科ではなく、公務員試験合格を目標に教育展開をしている学科であるため、試験合格のためのノウハウを備えている教員が授業・指導をしている。

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	国際ビジネス公務員大学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-jb.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	2023年6月1日～ 2027年5月31日	政策的観点
非常勤	団体職員	2023年6月1日～ 2027年5月31日	教育統括的視点
非常勤	弁護士	2023年6月1日～ 2027年5月31日	法的観点
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	国際ビジネス公務員大学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画については、学内の検討委員会において検討し決定している。毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布し、3月には授業科目ごとの内容を検討委員会で確認して決定している。授業計画書の公表時期は4月1日とし、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。</p>	
授業計画書の公表方法	https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-jb.html
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学修成果の評価については、各学期末の試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点~100点)(優)、B(70点~79点)(良)、C(60点~69点)(可)、D(0点~59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価においては、客観的指標を設定するために、授業科目ごとの成績評価を100点満点に換算した上で取得点数の平均を求める仕組みを導入している。</p> <p>各学生の平均得点と相対順位を把握する成績評価方法は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科単位を基本として全学生が履修した科目の総得点から平均を求め、「成績一覧表」により学年毎の順位を求める。 ・学生の平均得点と相対順位をもとにした「得点分布表」により、学科学年ごとの成績の分布状況を把握する。 <p>この成績評価方法は半期ごとの集計も可能な方法となっており、「前期」、「後期」、「通年」の成績分布が把握可能な方法である。</p> <p>成績評価の実施については、これらの成績評価の方法により学科学年ごとに実施しており、客観的指標の設定については下記HPにて公開されている。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-jb.html</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業に必要な条件については</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間90%以上の出席率があること ・科目評価C以上（認定評価科目を除く）であることを条件としている。 <p>卒業の可否は、毎年2月に実施する「卒業判定会議」において、全学科の全科目について・出席状況 ・期末試験状況 ・認定試験状況を勘案して審議し、決定される。</p> <p>なお、卒業認定に関する規定については、下記HPのみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-jb.html</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	国際ビジネス公務員大学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-jb.html
収支計算書又は損益計算書	https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-jb.html
財産目録	https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-jb.html
事業報告書	https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-jb.html
監事による監査報告（書）	https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-jb.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業		商業実務 専門課程	公務員科 行政公務員コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1914 単位時間	1167 単位時間	568 単位時間	179 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
	1914 単位時間						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		65 人	0 人	4 人の内数	3 人の内数	7 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業計画については、学内の検討委員会において検討し決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布し、3月には授業科目ごとの内容を検討委員会で確認して決定している。 授業計画書の公表時期は4月1日とし、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学修成果の評価については、各学期末の試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業・進級に必要な条件については</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間90%以上の出席率があること ・科目評価C以上（認定評価科目を除く）であること <p>を条件としている。</p> <p>卒業・進級の可否は、毎年2月に実施する「卒業進級判定会議」において、全学科の全科目について・出席状況 ・期末試験状況 ・認定試験状況を勘案して審議し、決定される。 なお、卒業・進級認定に関する規定については、HPのみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>各種公務員採用試験内定、検定・資格取得のために補講を実施し合格率向上に取り組んでいる。また、学科毎の特色を生かした産官学連携をはじめとする実践教育を実施し、考察力やプレゼンテーション力、適応力など社会的実践力を育成している。</p>

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業		商業実務 専門課程	公務員科 公安公務員コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1914 単位時間	1167 単位時間	538 単位時間	209 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1914 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		25 人	0 人	4 人の内数	3 人の内数	7 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）						
（概要） 授業計画については、学内の検討委員会において検討し決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布し、3月には授業科目ごとの内容を検討委員会で確認して決定している。 授業計画書の公表時期は4月1日とし、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。						
成績評価の基準・方法						
（概要） 学修成果の評価については、各学期末の試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。						
卒業・進級の認定基準						
（概要） 卒業・進級に必要な条件については ・年間90%以上の出席率があること ・科目評価C以上（認定評価科目を除く）であることを条件としている。 卒業・進級の可否は、毎年2月に実施する「卒業進級判定会議」において、全学科の全科目について・出席状況・期末試験状況・認定試験状況を勘案して審議し、決定される。 なお、卒業・進級認定に関する規定については、HPのみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。						
学修支援等						
（概要） 各種公務員採用試験内定、検定・資格取得のために補講を実施し合格率向上に取り組んでいる。また、学科毎の特色を生かした産官学連携をはじめとする実践教育を実施し、考察力やプレゼンテーション力、適応力など社会的実践力を育成している。						

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
44人 (100%)	0人 (0.0%)	38人 (86.4%)	6人 (13.6%)
(主な就職、業界等) 国家公務員、地方公務員、警察官、消防官、自衛官			
(就職指導内容) 公務員試験研修およびビジネスマナー研修の開催、個別履歴書添削、個別面談指導、就職担当との面談、新卒応援ハローワークの活用			
(主な学修成果（資格・検定等）) 公務員採用試験 1次合格率：44/44 100.0% 最終合格率：43/44 97.7%			
(備考)（任意記載事項） コース共通であるため1つに集約			

中途退学の現状		
2023年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
85人	1人	1.1%
(中途退学の主な理由) 進路変更のため。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席学生に対して保護者への連絡や家庭訪問を実施して学生状況の確認をしている。また、学生と保護者の希望により、スクールカウンセラーとの連携による個別面談や三者面談を実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業		商業実務 専門課程	公務員短期受験科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	952 単位時間	476 単位時間	397 単位時間	79 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			952 単位時間 / 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		14人	0人	1人	4人	5人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業計画については、学内の検討委員会において検討し決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布し、3月には授業科目ごとの内容を検討委員会で確認して決定している。 授業計画書の公表時期は4月1日とし、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学修成果の評価については、各学期末の試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業・進級に必要な条件については</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間90%以上の出席率があること ・科目評価C以上（認定評価科目を除く）であること <p>を条件としている。 卒業・進級の可否は、毎年2月に実施する「卒業進級判定会議」において、全学科の全科目について・出席状況 ・期末試験状況 ・認定試験状況を勘案して審議し、決定される。 なお、卒業・進級認定に関する規定については、HPのみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>各種公務員採用試験内定。検定・資格取得のために補講を実施し合格率向上に取り組んでいる。また、各官公庁の担当者による講演や公務員として働く卒業生の講話を通じ、1年課程ながらも公務員就職に向けた意識形成を実践している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
11人 (100%)	0人 (0%)	10人 (91.0%)	1人 (9.0%)
(主な就職、業界等) 国家公務員、地方公務員、警察官、消防官、自衛官			
(就職指導内容) 公務員試験研修およびビジネスマナー研修の開催、個別履歴書添削、個別面談指導、就職担当との面談、新卒応援ハローワークの活用			
(主な学修成果（資格・検定等）) 公務員採用試験 1次合格率：11/11 100.0% 最終合格率：10/11 90.9%			
(備考)（任意記載事項） 年度の途中に1名が公務員科から公務員短期受験科へ転科			

中途退学の現状		
2023年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11人	1人	8.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更のため。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席学生に対して保護者への連絡や家庭訪問を実施して学生状況の確認をしている。また、学生と保護者の希望により、スクールカウンセラーとの連携による個別面談や三者面談を実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業		商業実務 専門課程	総合医療事務科 医療事務・医療秘書コース (旧：医療ビジネス科 病 院・クリニックコース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1914 単位時間	644 単位時間	696 単位時間	574 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1914 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80 人の内数	33 人	0 人	2 人の内数	2 人の内数	4 人の内数		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画については、学内の検討委員会において検討し決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布し、3月には授業科目ごとの内容を検討委員会で確認して決定している。 授業計画書の公表時期は4月1日とし、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。
成績評価の基準・方法
(概要) 学修成果の評価については、各学期末の試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点) (優)、B(70点～79点) (良)、C(60点～69点) (可)、D(0点～59点) (不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業・進級に必要な条件については ・年間90%以上の出席率があること ・科目評価C以上(認定評価科目を除く)であること を条件としている。 卒業・進級の可否は、毎年2月に実施する「卒業進級判定会議」において、全学科の全科目について・出席状況・期末試験状況・認定試験状況を勘案して審議し、決定される。 なお、卒業・進級認定に関する規定については、HPのみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。
学修支援等
(概要) 検定、資格取得のために補講を実施し合格率向上に取り組んでいる。また、学科毎の特色を生かした産官学連携をはじめとする実践教育を数多く実施し、考察力やプレゼンテーション力、適応力など社会的実践力を育成している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18人 (100%)	0人 (0%)	16人 (88.9%)	2人 (11.1%)
(主な就職、業界等) 病院、クリニック			
(就職指導内容) ビジネスマナー研修および就職研修会の開催、個別履歴書添削、個別面談指導、就職担当との面談、学内企業説明会の開催、新卒応援ハローワークの活用			
(主な学修成果（資格・検定等）) 医師事務作業補助者検定試験：18/18 100% 電子カルテ検定：18/18 100% 医事コンピュータ技能検定2級：17/18 94.4%			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
2023年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
32人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席学生に対して保護者への連絡や家庭訪問を実施して学生状況の確認をしている。また、学生と保護者の希望により、スクールカウンセラーとの連携による個別面談や三者面談を実施している。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業	商業実務 専門課程	総合医療事務科 くすりアドバイザーコース (旧：医療ビジネス科 調剤薬局・登 録販売者コース)	○				
修業 年限	昼間	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1922 単位時間	552 単位時間	938 単位時間	432 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1922 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80 人の内数	29 人	0 人	2 人の内数	2 人の内数	4 人の内数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業計画については、学内の検討委員会において検討し決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布し、3月には授業科目ごとの内容を検討委員会で確認して決定している。 授業計画書の公表時期は4月1日とし、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学修成果の評価については、各学期末の試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業・進級に必要な条件については</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間90%以上の出席率があること ・科目評価C以上（認定評価科目を除く）であること <p>を条件としている。 卒業・進級の可否は、毎年2月に実施する「卒業進級判定会議」において、全学科の全科目について・出席状況 ・期末試験状況 ・認定試験状況を勘案して審議し、決定される。 なお、卒業・進級認定に関する規定については、HPのみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>検定、資格取得のために補講を実施し合格率向上に取り組んでいる。また、学科毎の特色を生かした産官学連携をはじめとする実践教育を数多く実施し、考察力やプレゼンテーション力、適応力など社会的実践力を育成している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
17人 （100%）	0人 （0%）	17人 （100%）	0人 （0%）
（主な就職、業界等） 調剤薬局、ドラッグストア、クリニック			
（就職指導内容） ビジネスマナー研修および就職研修会の開催、個別履歴書添削、個別面談指導、就職担当との面談、学内企業説明会の開催、新卒応援ハローワークの活用			
（主な学修成果（資格・検定等）） 調剤事務管理士技能認定試験：17/17 100% 登録販売者：10/17 58.8% 薬学検定3級：7/16 43.8% 調剤報酬専門士3級：17/17 100%			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
2023年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30人	1人	3.3%
（中途退学の主な理由） 学習意欲の低下により、出席率が低下。進級要件が満たせないことからより一層意欲が低下し、退学となる。		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席学生に対して保護者への連絡や家庭訪問を実施して学生状況の確認をしている。また、学生と保護者の希望により、スクールカウンセラーとの連携による個別面談や三者面談を実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業		商業実務 専門課程	総合医療事務科 医療情報コース（旧：医療ビジ ネス科 医療情報コース）	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1939 単位時間	550 単位時間	841 単位時間	548 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1939 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		0 人	0 人	2 人の内数	2 人の内数	4 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業計画については、学内の検討委員会において検討し決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布し、3月には授業科目ごとの内容を検討委員会で確認して決定している。 授業計画書の公表時期は4月1日とし、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学修成果の評価については、各学期末の試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業・進級に必要な条件については</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間90%以上の出席率があること ・科目評価C以上（認定評価科目を除く）であること <p>を条件としている。</p> <p>卒業・進級の可否は、毎年2月に実施する「卒業進級判定会議」において、全学科の全科目について・出席状況 ・期末試験状況 ・認定試験状況を勘案して審議し、決定される。 なお、卒業・進級認定に関する規定については、HPのみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>検定、資格取得のために補講を実施し合格率向上に取り組んでいる。また、学科毎の特色を生かした産官学連携をはじめとする実践教育を数多く実施し、考察力やプレゼンテーション力、適応力など社会的実践力を育成している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 （0%）	0人 （0%）	0人 （0%）	0人 （0%）
（主な就職、業界等） 2023年度入学生より新設コースのため、実績無し			
（就職指導内容） 2023年度入学生より新設コースのため、実績無し			
（主な学修成果（資格・検定等）） 2023年度入学生より新設コースのため、実績無し			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
2023年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
5人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席学生に対して保護者への連絡や家庭訪問を実施して学生状況の確認をしている。また、学生と保護者の希望により、スクールカウンセラーとの連携による個別面談や三者面談を実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業		商業実務 専門課程	医療事務科 (1年課程)					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類				
				講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	952 単位時間		274 単位時間	290 単位時間	388 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
				952 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20人		3人	0人	1人	3人	4人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業計画については、学内の検討委員会において検討し決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布し、3月には授業科目ごとの内容を検討委員会で確認して決定している。 授業計画書の公表時期は4月1日とし、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学修成果の評価については、各学期末の試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業・進級に必要な条件については</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間90%以上の出席率があること ・科目評価C以上（認定評価科目を除く）であること <p>を条件としている。 卒業・進級の可否は、毎年2月に実施する「卒業進級判定会議」において、全学科の全科目について・出席状況 ・期末試験状況 ・認定試験状況を勘案して審議し、決定される。 なお、卒業・進級認定に関する規定については、HPのみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>検定、資格取得のために補講を実施し合格率向上に取り組んでいる。また、学科毎の特色を生かした産官学連携をはじめとする実践教育を数多く実施し、考察力やプレゼンテーション力、適応力など社会的実践力を育成している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5人 (100%)	0人 (0%)	4人 (80%)	1人 (20%)
(主な就職、業界等) クリニック、病院			
(就職指導内容) ビジネスマナー研修および就職研修会の開催、個別履歴書添削、個別面談指導、就職担当との面談、学内企業説明会の開催、新卒応援ハローワークの活用			
(主な学修成果（資格・検定等）) 医科医療事務管理士技能認定試験合格率：7/7 100%			
(備考)（任意記載事項） 在籍7名の内、2名は2年制課程に転科			

中途退学の現状		
2023年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
8人	1人	12.5%
(中途退学の主な理由) 精神的理由により、通学が困難となり退学。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席学生に対して保護者への連絡や家庭訪問を実施して学生状況の確認をしている。また、学生と保護者の希望により、スクールカウンセラーとの連携による個別面談や三者面談を実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業		商業実務 専門課程	総合ビジネス科 販売コース (旧：販売・マーケティング)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1832 単位時間	1,006 単位時間	433 単位時間	393 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1832 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人の内数		17 人	0 人	1 人の内数	15 人の内数	16 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業計画については、学内の検討委員会において検討し決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布し、3月には授業科目ごとの内容を検討委員会で確認して決定している。 授業計画書の公表時期は4月1日とし、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学修成果の評価については、各学期末の試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業・進級に必要な条件については</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間90%以上の出席率があること ・科目評価C以上（認定評価科目を除く）であること <p>を条件としている。 卒業・進級の可否は、毎年2月に実施する「卒業進級判定会議」において、全学科の全科目について・出席状況 ・期末試験状況 ・認定試験状況を勘案して審議し、決定される。 なお、卒業・進級認定に関する規定については、HPのみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>検定、資格取得のために補講を実施し合格率向上に取り組んでいる。また、学科毎の特色を生かした産官学連携をはじめとする実践教育を数多く実施し、考察力やプレゼンテーション力、適応力など社会的実践力を育成している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
13人 (100%)	0人 (0%)	12人 (92.3%)	1人 (7.7%)
(主な就職、業界等) 一般企業・会計事務所			
(就職指導内容) ビジネスマナー研修および就職研修会の開催、個別履歴書添削、個別面談指導、就職担当との面談、学内企業説明会の開催、新卒応援ハローワークの活用			
(主な学修成果（資格・検定等）) Microsoft office specialist Word 合格率：10/11 90.9% Microsoft office specialist Excel 合格率：11/11 100.0%			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
2023年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
21人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席学生に対して保護者への連絡や家庭訪問を実施して学生状況の確認をしている。また、学生と保護者の希望により、スクールカウンセラーとの連携による個別面談や三者面談を実施している。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業	商業実務 専門課程	総合ビジネス科 経理事務コース (旧：会計・事務コース)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2062 単位時間	1236 単位時間	778 単位時間	48 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			2062 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人の内数	20 人	0 人	1 人の内数	15 人の内数	16 人の内数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業計画については、学内の検討委員会において検討し決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布し、3月には授業科目ごとの内容を検討委員会で確認して決定している。 授業計画書の公表時期は4月1日とし、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学修成果の評価については、各学期末の試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業・進級に必要な条件については</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間90%以上の出席率があること ・科目評価C以上（認定評価科目を除く）であること <p>を条件としている。 卒業・進級の可否は、毎年2月に実施する「卒業進級判定会議」において、全学科の全科目について・出席状況 ・期末試験状況 ・認定試験状況を勘案して審議し、決定される。 なお、卒業・進級認定に関する規定については、HPのみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>検定、資格取得のために補講を実施し合格率向上に取り組んでいる。また、学科毎の特色を生かした産官学連携をはじめとする実践教育を数多く実施し、考察力やプレゼンテーション力、適応力など社会的実践力を育成している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5人 (100%)	0人 (0%)	5人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 会計事務所、税理士事務所、一般企業等			
(就職指導内容) ビジネスマナー研修および就職研修会の開催、個別履歴書添削、個別面談指導、就職担当との面談、学内企業説明会の開催、新卒応援ハローワークの活用			
(主な学修成果（資格・検定等）) 日商簿記検定2級取得率：4/5 80%、MicrosoftofficespecialistExce：5/5 100%			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
2023年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
15人	2人	13.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更のため。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席学生に対して保護者への連絡や家庭訪問を実施して学生状況の確認をしている。また、学生と保護者の希望により、スクールカウンセラーとの連携による個別面談や三者面談を実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業		商業実務 専門課程	総合ビジネス科 ホテル・観光コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 1830 単位時間		開設している授業の種類			
	昼間			講義	演習	実習	実験
2年			946 単位時間	476 単位時間	408 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
		1830 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人の内数		12 人	0 人	1 人の内数	15 人の内数	16 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業計画については、学内の検討委員会において検討し決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布し、3月には授業科目ごとの内容を検討委員会で確認して決定している。 授業計画書の公表時期は4月1日とし、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学修成果の評価については、各学期末の試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業・進級に必要な条件については</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間90%以上の出席率があること ・科目評価C以上（認定評価科目を除く）であること <p>を条件としている。 卒業・進級の可否は、毎年2月に実施する「卒業進級判定会議」において、全学科の全科目について・出席状況 ・期末試験状況 ・認定試験状況を勘案して審議し、決定される。 なお、卒業・進級認定に関する規定については、HPのみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>検定、資格取得のために補講を実施し合格率向上に取り組んでいる。また、学科毎の特色を生かした産官学連携をはじめとする実践教育を数多く実施し、考察力やプレゼンテーション力、適応力など社会的実践力を育成している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
11人 （100%）	0人 （0%）	11人 （100%）	0人 （0%）
（主な就職、業界等） ホテル、旅館、ジュエリーショップ等			
（就職指導内容） ビジネスマナー研修および就職研修会の開催、個別履歴書添削、個別面談指導、就職担当との面談、学内企業説明会の開催、新卒応援ハローワークの活用			
（主な学修成果（資格・検定等）） ホテル実務技能認定試験（宿泊・料飲）合格率：6/6 100%			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
2023年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
17人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席学生に対して保護者への連絡や家庭訪問を実施して学生状況の確認をしている。また、学生と保護者の希望により、スクールカウンセラーとの連携による個別面談や三者面談を実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業		商業実務 専門課程	総合ビジネス科 イベントビジネスコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1751 単位時間	844 単位時間	433 単位時間	474 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1751 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人の内数		1 人	0 人	1 人の内数	15 人の内数	16 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業計画については、学内の検討委員会において検討し決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布し、3月には授業科目ごとの内容を検討委員会で確認して決定している。 授業計画書の公表時期は4月1日とし、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学修成果の評価については、各学期末の試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業・進級に必要な条件については</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間90%以上の出席率があること ・科目評価C以上（認定評価科目を除く）であること <p>を条件としている。</p> <p>卒業・進級の可否は、毎年2月に実施する「卒業進級判定会議」において、全学科の全科目について・出席状況 ・期末試験状況 ・認定試験状況を勘案して審議し、決定される。 なお、卒業・進級認定に関する規定については、HPのみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>検定、資格取得のために補講を実施し合格率向上に取り組んでいる。また、学科毎の特色を生かした産官学連携をはじめとする実践教育を数多く実施し、考察力やプレゼンテーション力、適応力など社会的実践力を育成している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 （0%）	0人 （0%）	0人 （0%）	0人 （0%）
（主な就職、業界等） 2023年度より新設のコースのため卒業生なし			
（就職指導内容） ビジネスマナー研修および就職研修会の開催、個別履歴書添削、個別面談指導、就職担当との面談、学内企業説明会の開催、新卒応援ハローワークの活用			
（主な学修成果（資格・検定等）） Microsoft office specialist (Word・Excel) 合格率：1/1 100% リテールマーケティング検定3級合格率：1/1 100%			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
2023年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席学生に対して保護者への連絡や家庭訪問を実施して学生状況の確認をしている。また、学生と保護者の希望により、スクールカウンセラーとの連携による個別面談や三者面談を実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業		商業実務 専門課程	情報ビジネス科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1856 単位時間	698 単位時間	711 単位時間	447 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1856 単位時間 / 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		25人	2人	1人の内数	6人の内数	7人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業計画については、学内の検討委員会において検討し決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布し、3月には授業科目ごとの内容を検討委員会で確認して決定している。 授業計画書の公表時期は4月1日とし、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学修成果の評価については、各学期末の試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業・進級に必要な条件については</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間90%以上の出席率があること ・科目評価C以上（認定評価科目を除く）であること <p>を条件としている。</p> <p>卒業・進級の可否は、毎年2月に実施する「卒業進級判定会議」において、全学科の全科目について・出席状況 ・期末試験状況 ・認定試験状況を勘案して審議し、決定される。 なお、卒業・進級認定に関する規定については、HPのみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。</p>
学修支援等
<p>検定、資格取得のために補講を実施し合格率向上に取り組んでいる。また、学科毎の特色を生かした産官学連携をはじめとする実践教育を数多く実施し、考察力やプレゼンテーション力、適応力など社会的実践力を育成している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
8人 (100%)	0人 (0%)	5人 (62.5%)	3人 (37.5%)
(主な就職、業界等) 一般企業、IT企業 他			
(就職指導内容) ビジネスマナー研修および就職研修会の開催、個別履歴書添削、個別面談指導、就職担当との面談、学内企業説明会の開催、新卒応援ハローワークの活用			
(主な学修成果（資格・検定等）) Microsoft Office Specialist Word 365&2019 100% Microsoft Office Specialist Excel 365&2019 100% Microsoft Office Specialist Word Expert 365&2019 100% Microsoft Office Specialist Excel Expert 365&2019 100% ビジネス能力検定ジョブパス 3級 100% 情報検定 情報活用試験 3級 100%			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
2023年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席学生に対して保護者への連絡や家庭訪問を実施して学生状況の確認をしている。また、学生と保護者の希望により、スクールカウンセラーとの連携による個別面談や三者面談を実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業		商業実務 専門課程	ライフデザイン科2年制				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1712 単位時間	32 単位時間	1560 単位時間	120 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1712 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
15人		3人	0人	1人の内数	2人の内数	3人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業計画については、学内の検討委員会において検討し決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布し、3月には授業科目ごとの内容を検討委員会で確認して決定している。 授業計画書の公表時期は4月1日とし、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学修成果の評価については、各学期末の試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業・進級に必要な条件については</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間90%以上の出席率があること ・科目評価C以上（認定評価科目を除く）であること <p>を条件としている。</p> <p>卒業・進級の可否は、毎年2月に実施する「卒業進級判定会議」において、全学科の全科目について・出席状況 ・期末試験状況 ・認定試験状況を勘案して審議し、決定される。なお、卒業・進級認定に関する規定については、HPのみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。</p>
学修支援等
<p>検定、資格取得のために補講を実施し合格率向上に取り組んでいる。また、学科毎の特色を生かした産官学連携をはじめとする実践教育を数多く実施し、考察力やプレゼンテーション力、適応力など社会的実践力を育成している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 （0%）	0人 （0%）	0人 （0%）	0人 （0%）
（主な就職、業界等） 2024年度入学生より新設学科のため、実績なし			
（就職指導内容） 2024年度入学生より新設学科のため、実績なし			
（主な学修成果（資格・検定等）） 2024年度入学生より新設学科のため、実績なし			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
2023年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席学生に対して保護者への連絡や家庭訪問を実施して学生状況の確認をしている。また、学生と保護者の希望により、スクールカウンセラーとの連携による個別面談や三者面談を実施している。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業	商業実務 専門課程	ライフデザイン科1年制					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼間	820 単位時間	32 単位時間	728 単位時間 /単位	60 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			820 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
15人	3人	0人	1人の内数	2人の内数	3人の内数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業計画については、学内の検討委員会において検討し決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布し、3月には授業科目ごとの内容を検討委員会で確認して決定している。 授業計画書の公表時期は4月1日とし、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学修成果の評価については、各学期末の試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業・進級に必要な条件については</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間90%以上の出席率があること ・科目評価C以上（認定評価科目を除く）であること <p>を条件としている。 卒業・進級の可否は、毎年2月に実施する「卒業進級判定会議」において、全学科の全科目について・出席状況 ・期末試験状況 ・認定試験状況を勘案して審議し、決定される。 なお、卒業・進級認定に関する規定については、HPのみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>検定、資格取得のために補講を実施し合格率向上に取り組んでいる。また、学科毎の特色を生かした産官学連携をはじめとする実践教育を数多く実施し、考察力やプレゼンテーション力、適応力など社会的実践力を育成している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 （0%）	0人 （0%）	0人 （0%）	0人 （0%）
（主な就職、業界等） 2024年度入学生より新設学科のため、実績なし			
（就職指導内容） 2024年度入学生より新設学科のため、実績なし			
（主な学修成果（資格・検定等）） 2024年度入学生より新設学科のため、実績なし			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
2023年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
（中途退学の主な理由） 2024年度入学生より新設学科のため、実績なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席学生に対して保護者への連絡や家庭訪問を実施して学生状況の確認をしている。また、学生と保護者の希望により、スクールカウンセラーとの連携による個別面談や三者面談を実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		教育社会福祉 専門課程	こども保育科 (保育士コース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	119 単位	27 単位	81 単位	10 単位	0 単位	1 単位
			119 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		6 人	0 人	6 人の内数	10 人の内数	16 人の内数	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>授業計画については、学内の検討委員会において検討し決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布し、3月には授業科目ごとの内容を検討委員会で確認して決定している。 授業計画書の公表時期は4月1日とし、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>学修成果の評価については、各学期末の試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>卒業・進級に必要な条件については</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間90%以上の出席率があること ・科目評価C以上(認定評価科目を除く)であること <p>を条件としている。 卒業・進級の可否は、毎年2月に実施する「卒業進級判定会議」において、全学科の全科目について・出席状況・期末試験状況・認定試験状況を勘案して審議し、決定される。 なお、卒業・進級認定に関する規定については、HPのみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>資格取得のために補講を実施し取得率向上に取り組んでいる。また、学科毎の特色を生かした産官学連携をはじめとする実践教育を実施し、考察力やコミュニケーション力、適応力など社会的実践力を育成している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5人 (100%)	0人 (0%)	4人 (80%)	1人 (20%)
(主な就職、業界等) 保育園、認定こども園			
(就職指導内容) ビジネスマナー研修および就職研修会の開催、個別履歴書添削、個別面談指導、就職担当との面談、学内企業説明会の開催、新卒応援ハローワークの活用			
(主な学修成果（資格・検定等）) 保育士資格 幼児体育指導者検定2級合格率100%			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
2023年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
7人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席学生に対して保護者への連絡や家庭訪問を実施して学生状況の確認をしている。また、学生と保護者の希望により、スクールカウンセラーとの連携による個別面談や三者面談を実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		教育社会福祉 専門課程	こども保育科 (幼稚園教諭併修コース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	124 単位	27 単位	82 単位	14 単位	0 単位	1 単位
			124 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人の内数		41 人	0 人	6 人の内数	10 人の内数	16 人の内数	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業計画については、学内の検討委員会において検討し決定している。 毎年2月に次年度の共通フォーマットを策定して教員に配布し、3月には授業科目ごとの内容を検討委員会で確認して決定している。 授業計画書の公表時期は4月1日とし、4月の授業開始前オリエンテーション時に授業計画を配布して説明する機会を設けている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学修成果の評価については、各学期末の試験の実施及び実習成果の評価の他、教科毎に出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。期末試験は実技試験、筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業・進級に必要な条件については</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間90%以上の出席率があること ・科目評価C以上（認定評価科目を除く）であること <p>を条件としている。 卒業・進級の可否は、毎年2月に実施する「卒業進級判定会議」において、全学科の全科目について・出席状況 ・期末試験状況 ・認定試験状況を勘案して審議し、決定される。 なお、卒業・進級認定に関する規定については、HPのみならず、学生の手引きに記載し、学生・保護者に周知している。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>資格取得のために補講を実施し取得率向上に取り組んでいる。また、学科毎の特色を生かした産官学連携をはじめとする実践教育を実施し、考察力やコミュニケーション力、適応力など社会的実践力を育成している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
17人 (100%)	0人 (0%)	17人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 幼稚園、保育園、認定こども園			
(就職指導内容) ビジネスマナー研修および就職研修会の開催、個別履歴書添削、個別面談指導、就職担当との面談、学内企業説明会の開催、新卒応援ハローワークの活用			
(主な学修成果（資格・検定等）) 保育士資格 幼児体育指導者検定2級合格率100%			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
2023年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
35人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席学生に対して保護者への連絡や家庭訪問を実施して学生状況の確認をしている。また、学生と保護者の希望により、スクールカウンセラーとの連携による個別面談や三者面談を実施している。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
公務員科	150,000 円	700,000 円	120,000 円	その他は設備費
公務員短期受験 科 (1年課程)	150,000 円	700,000 円	120,000 円	その他は設備費
医療ビジ ネス科	150,000 円	700,000 円	120,000 円	その他は設備費
医療事務科 (1年課程)	150,000 円	700,000 円	120,000 円	その他は設備費
総合ビジ ネス科	150,000 円	700,000 円	120,000 円	その他は設備費
情報ビジネス科	150,000 円	700,000 円	120,000 円	その他は設備費
こども 保育科 (保育士コース)	150,000 円	700,000 円	120,000 円	その他は設備費
こども 保育科 (幼稚園教諭併修コ ース1年次)	150,000 円	890,000 円	120,000 円	その他は設備費
ライフデザイン 科2年制	150,000 円	700,000 円	0 円	その他は設備費
ライフデザイン 科1年制	150,000 円	700,000 円	0 円	その他は設備費
国際ビジネスマネジ メント科 (留学生のみ)	50,000 円	560,000 円	120,000 円	その他は設備費
修学支援 (任意記載事項)				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 無利子奨学制度 (貸与奨学金) 貸与金額 高校新卒者：年額 300,000 円 高校既卒者：年額 1,000,000 円 ・ 入学時特待生制度 (高校在学中の成績・取得資格等に応じて入学金・授業料を免除) 免除金額 50,000 円～350,000 円 ・ 進級時特待生制度 (進級前年度の成績・出席状況に応じて授業料を免除) 免除金額 100,000 円 ・ 学費分割納入制度：納入学費の支払いスケジュールを月々の支払いへ変更 				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-jb.html		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 学校関係者評価については、文部科学省策定の「専修学校における学校評価ガイドライン」をベースに、任意団体である全国専門学校経営研究会(加盟校:26法人113校)により協議検討を重ねた「自己点検・評価基準」を主に点検基準表を策定し自己評価したものを、外部から委員として企業・団体や卒業生により構成された学校関係者評価委員の有識者により、学校運営に関する点検・評価に対して意見を伺い、学校長が再点検の上、学校運営に反映させる方針とする。 学校関係者評価の結果については学校関係者評価報告書としてまとめ、ホームページ等で公表する。報告書の内容については教職員会において周知するとともに、教育課程編成委員会においても説明することで学校としての課題と改善の取り組みを共有し、教育活動や学校運営の改善等に活用する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
城西国際大学 准教授	2023年4月1日～ 2025年3月31日	学識者
郡山商工会議所	2023年4月1日～ 2025年3月31日	企業等委員
福島県総合型スポーツクラブ連絡協議会	2023年4月1日～ 2025年3月31日	企業等委員
税理士法人 三部会計事務所	2023年4月1日～ 2025年3月31日	企業等委員
ハマツ観光	2023年4月1日～ 2025年3月31日	企業等委員
福島交通観光	2023年4月1日～ 2025年3月31日	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://fsg-college.jp/jyouhoukoukai-jb.html		
第三者による学校評価(任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://jo-bi.jp/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H107320381088
学校名 (〇〇大学 等)	国際ビジネス公務員大学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 国際総合学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		52人	50人	55人
内訳	第Ⅰ区分	29人	25人	
	第Ⅱ区分	11人	14人	
	第Ⅲ区分	12人	11人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				55人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下）	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	0人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	0人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	0人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。